

大阪健康安全基盤研究所の平成30事業年度の業務実績に関する評価結果（概要）

項目別評価

大項目1. 試験検査機能の充実

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
2	0	0	2 (①②)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 施設や組織の一元化に向けて、検査業務の統一化の着実な推進を図られたい。
- 平成29年度に設置した精度管理室による内部監査などを実施し、検査の信頼性確保に取り組んだ。試験検査機関として信頼性確保を図るとともに、検査精度を保證できるよう、今後も内部精度管理に努められたい。

大項目2. 調査研究機能の充実

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
2	0	1 (④)	1 (③)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 施設一元化へ向けて、森ノ宮・天王寺両センターにまたがる調査研究課題を集約したほか、調査研究審査委員会において、平成30年度から評価の仕組みを見直したことを評価する。
- 競争的外部研究資金への応募数は67件で数値目標（40件）を大きく上回ったことに加え、新規採択率が全国304研究機関中7位となるなど、積極的な応募に取り組んだ成果が出ている。
- 競争的外部研究資金の獲得は、研究機能の活性化、若手研究者の人材育成にもつながることから、応募数等とあわせ、研究の質的向上をめざして、組織的な奨励・支援に継続的に取り組むことを期待する。
- 受託研究・共同研究について、大安研の特性を活かし、社会還元できるような研究の充実を図られたい。

大項目3. 研修及び感染症情報の収集等

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
2	0	1 (⑤)	1 (⑥)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 麻しんの発生状況の詳細な分析を行うとともに、機能強化を推進し、リスク評価を行い、情報発信していることを評価する。引き続き感染症等の情報収集・解析・提供の取組みを進められたい。
- 報道機関に対する連絡会を9月以降毎月開催するなど、感染症情報の発信力強化に取り組んでいることを評価する。
- 今後、府民や報道機関のニーズを踏まえ、広く府民生活に関わる公衆衛生情報を適時に発信するとともに、手法についても、府民へのわかりやすさ・発信力を高めていくため、行政や民間企業等と連携した情報発信に取り組む、大安研の認知度の向上に努められたい。
- 国内外の公衆衛生関係者等を中心に計画を上回る回数の研修を実施している。今後は法人の自主性・機動性を活かし、行政関係者や業界等の研修ニーズを踏まえ、研修対象者を拡大するなど、研修事業の新たな展開を図られたい。

大項目4. 地方衛生研究所の広域連携及び特に拡充すべき機能

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
4	0	1 (⑧)	3 (⑦⑨⑩)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 平成29年度に人材確保には至らなかった疫学解析研究課において、疫学解析研究の専門家が少ない中で、実施体制の整備に取り組んだことを評価する。今後の疫学解析研究への取組みに期待する。
- 専門医研修プログラムへの参画や、学生への研修を積極的に行うなど大学との連携を強化している。引き続き学術界との連携を図るとともに、産業界を対象とする相談機能の強化にも取り組まれたい。

大項目5. 業務運営の改善

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
2	0	0	2 (⑪⑫)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 引き続き、地方独立行政法人化のメリットを活かして、意思決定の迅速化を図り、自主的・機動的な法人運営に取り組まれたい。
- 人事評価制度は試行実施に至らず、所内で案を検討するに留まっている。職員の職務能力及び勤務意欲の向上を図るため、早期に制度を構築し実施するよう取り組まれたい。
- 職員採用については、法人の自主性・機動性を活かして、柔軟な採用を行い、必要な人員を確保している。
- 今後も、質の高い検査や研究を行うための優秀な人材を確保するよう、地方独立行政法人化のメリットを更に活かし、法人の特性に合った人事制度や給与制度の構築に取り組まれたい。

大項目6. 財務その他業務運営に関する重要事項

評価：A

小項目数	V	IV	III	II	I
3	0	0	3 (⑬⑭⑮)	0	0

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 病原体や化学物質を扱うことを考慮し、引き続き、事故の防止やコンプライアンスの徹底に努められたい。
- 統合効果を発揮して研究機能の更なる強化を図るためにも、一元化施設の整備を早期に進める必要がある。スケジュールにできるだけ遅れが生じることのないよう、法人が一丸となって取組みを進められたい。

全体評価

「全体として年度計画及び中期計画のとおり進捗している。」

大項目1	試験検査機能の充実	A 計画どおり
大項目2	調査研究機能の充実	A 計画どおり
大項目3	研修及び感染症情報の収集等	A 計画どおり
大項目4	地方衛生研究所の広域連携及び特に拡充すべき機能	A 計画どおり
大項目5	業務運営の改善	A 計画どおり
大項目6	財務その他業務運営に関する重要事項	A 計画どおり

(評価にあたっての意見、指摘等)

- 平成29年度業務実績評価の指摘事項を踏まえ、適切な財務諸表の作成を行ったほか、疫学解析研究部門の人材確保、競争的外部研究資金の獲得、麻しんのリスク評価、府民への情報発信などの成果を上げた。また、一元化施設の整備に向けて、基本設計の策定や検査業務等の集約化など、統合効果を高めるための取組みも計画的に進められている。
- 機能強化の推進や業務統一化に向け更なる取組みが必要ではあるが、設立次年度としては、「全体として計画を順調に実施している」と評価した。
- 今後、一元化施設の整備についてはスケジュール通りに進むよう、法人一丸となって取り組むとともに、統合効果を高めるために必要な人材を確保・育成し、人材マネジメント面での効率的な運用にも取り組まれたい。